

第1回  
浅草地区まちづくりビジョン策定委員会  
(部会合同開催)

日時：令和4年9月28日(水)  
15:00~17:00  
場所：台東区民会館9階 特別会議室(大)

15時00分 開会

1 開 会

2 台東区長挨拶

<鹿子木台東区技監 挨拶代読>

3 策定委員会会長・副会長選出

○事務局 次第3に進ませてもらいたと思います。会長及び副会長の選出を行わせていただきます。お手元の設置要綱第4条2項において、会長及び副会長については、学識経験者の委員の内から、委員の互選により定めることとさせていただいております。事務局としましては、会長を岸井委員に、副会長を清水委員にお願いしたいと存じますが、皆様いかがでしょうか。

(一同、拍手)

ありがとうございます。それでは岸井委員に会長を、清水委員に副会長をお願いしたいと存じます。それでは、お二人を代表して、岸井会長より、ご挨拶を頂戴したいと存じます。

○会長 ただいまご推挙いただきまして、この会の進行役を務めます、岸井と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

計量計画研究所と書いてございますけれども、3月まで日本大学で教鞭をとっておりました。この研究所は、一般財団法人でございます。現ビジョンをつくった時にいらした方だとお分かりだと思いますが、当時黒川先生が委員長をお務めで、実は黒川先生が私の前任の代表理事でございましたので、大変ご縁が深いなと思って今日は参りました。

現ビジョンでの議論は、つくばエクスプレスが開業した後、大きな変化が起きるなという時期でした。スカイツリーの建設が決まり、浅草文化観光センターもできあがり、浅草が大きな波に乗っていくような時期だったと思います。一方で、東日本大震災があり、コロナがあり、逆風も吹いておりましたが、最近ですとりバーウォークや隅田川沿いのリバーセンターですとか、隅田川を巡る新しい動きも出てまいりまして、様々な意味で今一度変化の時なのかなと思っています。

今回、ビジョンを再度考えてみよう、ということでございますが、これから先の話をご一緒に考えさせていただきます。来年は、関東大震災から100年を迎えることとなります。また、遠からず銀座線や東武浅草線が開業100年、あるいは浅草寺さんが創建1400年を迎えるという、いろいろと節目の時期を迎える、このときにご一緒に浅草地区をもう一度考えて、更なる浅草の発展というよりも、東京、日本の発展に役立てるようなビジョンができると良いなと考えております。是非、いろいろなお知恵をいただきまして、楽しいと思っただけのようなビジョンをつくってまい

りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 4 議 事

○事務局 会長、ありがとうございました。続きまして次第の4、議事に入る前にお断りいたしますが、今回は、設置要綱第8条の規定に基づき会議及び会議録を公開としております。

本日、傍聴の方もいらっしゃっております。6名の傍聴の方にお越しいただいておりますので、そのままご入場いただいております。

また、会議の資料及び議事録は、内容を確認の上、発言者のお名前を伏せた上で、区のホームページで後日公開させて頂くことをご了承願います。よろしくお願いいたします。

それでは、以降の議事につきましては、会長よろしく願いいたします。

##### (1) 浅草地区の状況について

○会長 それでは、お手元に議事次第があると思います。今日は、4つほど予定されております。順番にいきたいと思います。

まず、浅草地区の状況についての確認からまいりたいと思います。事務局から説明をお願いしたいと思います。

##### <事務局より資料1について説明>

○会長 ありがとうございます。それでは、ご説明いただいた資料についてご質問等があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 なかなか全体のビジョンは、話しにくいところがありますので、全体的なビジョンというよりも、まずは自分の住んでいるエリアについて頑張りたいと思います。そういうことでよろしければ。

○会長 はい。では、事務局がどう考えているか説明をお願いします。

○事務局 ありがとうございます。それは当然だと思います。皆さん、よくお分かりだと思いますが、少し離れると、特に浅草は地域ごとの特性も大きく変わると感じています。現ビジョンのときにも、同じような意見を頂戴しまして特徴ごとにいくつかエリアを分けさせていただいております。今回も、そのようなかたちになると思います。

是非、まずお住まいの地域、その周辺の地域についてお考えいただきご意見をいただければと思います。

○会長 区はそういうことを考えています。よろしいでしょうか。今日は国と都の方も来ていらっしゃるので、浅草全体として地域の価値を上げていくために何をしよう

か、何をしてもらおうか、また地域を越えてこれは是非浅草の為にやってほしい、というものをこのような場を通じて共通の話題として取り上げていきたいと思います。ただ、それぞれの地域の将来像については実際に活動をされている人がいらっしゃいますので、是非その方々を中心に議論を深めていただいて。いくつかのエリアがあってお互い競い合うこともあれば、手を繋ぐこともあるのですが、多くの地域が違う地域の力になっていく、ということがこれからの日本の姿なのではないかと思います。

どこか一色になってしまうのは決して良いことではないので、少しずつカラーが違ってその違うカラーのエリアが集まって、もっと大きな力になる、そのようなビジョンがつかれると良いなと思っております。よろしく願いいたします。他にはいかがでしょうか。

○委員 何度かこうした会議には出席させていただいております。今日は確かに全域で、地域が広いですから、我々個人の考えとしては自分を中心とした小さいエリアでどうやっていくか、それをどう広げていくかが重要だと思います。

私の持論ですが、規模は小さいけれど浅草は京都と同じだと思います。中央には浅草寺さんがいる、西の浅草は寺町といってもかっぱ橋道具街がある、北は奥浅草と粋筋のたくさんある地域であります。東は水辺で、交通の中心になってきました。南へ行くと、いろいろな事業者がたくさんあって、昔は繊維問屋や履物屋があったのですが、今は新しい企業が集まってきている。そういうかたちでもって、外から見られたときに、浅草って一日じゃ見きれないねという感覚を、周りの方にも見せていただいた方が良いのかなと、そのような工夫が必要だと思います。

中央のところには六区がありましたし、それぞれに一生懸命やってきましたけど、それはそれで1つの輝きがあります。今の東西南北を考えたときに、PR不足でもって、せっかく面白いものがあるのに、家に帰って後で資料を見た時に気付くということもあるので、我々が地域ごとに考えて、開発して知らしめて人を呼ぶというかたちに持っていけば良いのではと思います。そういうことで、我々も努力したいと思っています。

○会長 ありがとうございます。地域のカラーを持って、少し引いて地域全体を見て、何かサポートし合うものはないか、確認しながら進んでいくことかと思います。他にはいかがでしょうか。

○委員 最近、東武鉄道と浅草が非常に密接になって、何とか水辺というものを活かそうとしています。それで、浅草には企業が少ないのです。私たちのような小商人は、今までは企業のタイアップがあってやってきましたが、それが全然なくなって見ず知らずの企業が入ってきて困っています。昭和39年の東京のオリンピックの後、どん底だった浅草を、我々小商人、零細企業が頑張って良くしましたが、そこへ入ってきた。だが、まちのための応援はしないという状況です。そういうことも含めて役所を中心に協力するような体制をつくっていただきたい。東武鉄道は非常に頑張っていると思うので、その辺も全体的というなら、私達はそう思っています。

○会長 ありがとうございます。今日は、墨田区も東武鉄道もお越しでいらっしゃるっているので、また意見交換などしていただきたいと思います。先程から、まちの課題とか、これからまちをどのようにしたいかということは、次の資料にもございますので、その説明を受けて議論したいと思います。

ただ、最後のページにございました、まちづくり部会と基盤整備部会の2つの部会について議論していきたいと思います。これをもう少し説明をしていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○事務局 それでは、設置要綱の第7条に基づきまして、基盤整備部会とまちづくり部会の2つの部会についてご説明させていただきます。部会を構成するのは、要綱の別表2、及び、別表3に掲げる方となっております。議論していく内容は、先程お話しさせていただいたようなものでございます。なお、部会長について、要綱第7条5項に基づきまして、学識経験者の中から、会長の指名により定めることとしております。会長、各部会長の指名をお願いいたします。

○会長 はい。基盤整備部会については清水副会長に是非お願いしたいと思います。まちづくり部会については岡村委員をお願いしたいと思います。もちろん、こちらにいらっしゃる加藤委員、今日は来ておられませんが西村委員にもご一緒していただきますので、是非2つの部会を動かしていきたいと思います。みなさんいかがでしょうか。

(一同、拍手)

ありがとうございます。それでは引き続きよろしくをお願いいたします。

では、続いて議事の2番目、先程から話題に出ていますまちの課題等について、事務局の考えていることを説明していただきたいと思います。

## (2) 浅草地区のまちの課題とまちづくりの視点について

○事務局 では、資料2に基づいて、まちの課題とまちづくりの視点についてご説明させていただきます。

### <事務局より資料2について説明>

○会長 ありがとうございます。今、事務局で考えている浅草地区の課題、これから強化していく必要がある視点について、ご説明していただきました。今日は第1回なので完璧である必要はなく、いろいろな意見をいただいて、より良いものにしていけたらと思います。

ご質問、ご意見があればいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 まちづくりはしたことがないですが、商売は代々やっています。浅草は、昔は日本一の繁華街でした。それが、いつの間にか繁華街が廃れてきて、今は観光、観光と言っておりますけれども、日本一の門前町という自負があります。観音様一つで

これだけ何千万人が来る場所は他にないです。京都は何百という寺と門前町があって賑わっています。ただこれが狭い地域だけになっているので、北は言問通り、南は浅草通り、西が国際通り、東は隅田公園、この狭い地域からはみ出したところまで考えてもらいたいと思います。浅草というエリア、繁盛するエリアが広がっていきたくないと思います。路線価でいうと、上野の一等地は浅草の一等地の約3倍です。それから、北千住にも路線価は抜かれています。という事は、見た目よりもっともっと繁盛しないといけないまちだと思います。観光一辺倒というより、何でもかんでも入っている、銀座もそうだし、新宿や渋谷、池袋、あちらの方は繁華街が残っています。もう一度、繁華街のようにすることを考えていたらより良いのではと思います。

○会長 ありがとうございます。是非、他の方からもご意見が頂ければと思います。

○委員 先輩方の前で言うのもなんですが、私は浅草で生まれた訳でも、育った訳でもありません。父親がやっていた会社を継いで20年くらいやらせてもらっていますが、浅草のまちは大好きです。コミュニティもあって良いまちだと思います。

その中で、この会議に関しても、国の政策として女性幹部を入れていくという推進が来ている中で、これから20年先を考えながら、女性が引っ張っていかうとする中で、男性だけで議論して良いものかと思っています。この先を考えると、弊社でも女性幹部の取り入れが課題となっていますし、浅草に来られるお客さんも女性が多い、外国人も女性が多い中で、本当に20年先を考えていけるのだろうかと思っています。もちろん、諸先輩方のチェックがあったり、助言は無くってはならないと思いますが、気軽に意見が言えたり、実行できたりした方が良いと思います。若い世代の人たちにチャレンジをしてもらい、失敗や経験を積んでいってもらって、それを見て頂ける先輩方がいるうちにやっていただける、策定会議ではない前の段階、実行部隊としてあっても良いのではないかなと思っています。

○会長 是非、若い女性の意見を聞くべきであるというご意見でございました。ごもっともだと思います。せっかくですから先生方のご意見も。事務局がつくってきたものに対して感想をいただくと良いのですが。

○委員 今日の資料に関して言うと、平成19年に現在のビジョンが作られていて、相当社会情勢も変わっているし、その中で実現できたものもありますし今後もやっていかなければならないものもある。その中で、一旦ここで今のビジョンを評価、総括する作業をもう少し丁寧にした方が良いと思いました。ビジョンに書いて実現したものもあるが、実現したとしてもまた次のステップが見えてきている気もします。また、実現しないものについては何故実現できないのかということも含めて考察していく、継続中のものについても、そのまま継続すべきなのか、路線を変えて続けるべきなのか、まずきちんと総括して次の議論に入っていくべきではないかと思いました。

もう1点が将来イメージで、浅草のまちの中のイメージが中心なのですが、世界の浅草ですので、もっと引いて浅草の位置付けを考えていく必要があると思います。少なくとも、東京の中における浅草ってなんだだろうと、それを考えていくと、押上、スカイツリーだとか、上野だとかの関係性というのも考えていく必要があると思います。

銀座とどう対抗するのか、対抗するのは分かりませんが、そういうことも含めて少し引いた目で浅草を考えることが非常に重要と思いました。

○副会長 基盤部会を率いるということで、主に、この地区内の交通という視点で専門家として関わることとなります。今は観光の学科におりまして、インバウンドを中心とした観光の専門家を名乗っていますので、両方の観点からお話をしたいと思います。

今あったように、世界との関係、東京の中での位置付けは考えないといけないと思います。他のまちのようなつくり方をしてもしょうがないと思います。浅草が培ってきた圧倒的な部分に、どうやって新しいコミュニティを入れていくのかという、多様性みたいなものが、浅草では浅草寺さんを中心としたエリアがあまりにも強いので、そこを活かして新しい違う魅力を併せていくほうが、東京の他の地域との競争力という観点で望ましいことかと思えます。それが、まず一点目です。

それから二点目が、先程繁華街という話がありましたし、今は新しく住まわれた方もだいぶ増えてきて、中身がかなり入れ替わっている、元々、浅草で活動されていた人数がどんどん減ってきているということだと思います。ここ近年はインバウンドが流行っていたところもあるので、観光客で糊口を凌いでいて、それもコロナであつという間になくなったということだと思います。こうしてみると、地元の方、ここにお住まいの方、足繁く通う方にいかに遊んでいただくことが非常に重要だと思います。上辺の観光に依存すると、将来違う感染症でまた来なくなる可能性があるので、近くにお住まいの方の活動をどうつくり上げていくかが重要だと思います。

3つ目、これが一番悩ましいのですが、2040年前半の時代を想像しがたいことです。観光の世界がどうなっているか分からず、今は日本がたまたま世界の競争力一位になっていますが、その時までそういう時代が続いているか分かりません。近くの中国、韓国、アジアのライバルたちの魅力が向上すると、東京自体が危ないということになっておりますので、2040年は日本が容易に外国人を引き寄せられなくなることをみておいた方が良いでしょう。技術的にはDXなどかなり新しい概念、それが何者かということも含めてまだ良く分からないのですが、登場しています。私の専門の交通分野でいうと、2040年の交通もどうなっているのか全く分からないのです。全部自動運転かもしれないし、空をタクシーが飛んでいるかもしれません。そのようになってくると、まちの街路のつくりかたも考えを変えないといけない時代に差し掛かっているかもしれません。浅草には鉄道が何社か入っていますが、鉄道の将来需要も2040年頃になると、今を100とした時にどうなっているか、というものがあります。そういった交通事業者の使う技術や経営環境が、恐らく物凄く変わっているのが2040年代だと思います。そういったときに、そこを目標とするビジョンは、相当難しいと思っています。

3つのことを申し上げましたが、そういったことを考えていくのがビジョンの骨子になりまして、要素分解すると18ページに書いてある5つの項目になると思います。この右側のものにどう具体的にだるまの目を入れていくのか、ということが非常に重

要になってくると思います。そのカギになるのが、私が申し上げた3点にあると思っています。

○委員 今日のビジョンのたたき台について思っていることを話したいと思います。まずコロナの話があると思います。ヨーロッパ・アメリカでは、コロナがどこにいったのだろうという感じになっています。例えば、欧州の観光都市では観光客が普通に帰って来て、コロナ前のオーバーツーリズムの状況に戻っています。日本も遅れてはいますが、そのうち戻ってくるだろうと思います。コロナ前、浅草がどういう状況だったかを思い返しておかないと、私も情報不足ですが、実際に皆さんがどう思われていたのか、データではどうなっていたのかちゃんとみていかないといけないと思います。そういう意味では、当然浅草に住んでいらっしゃる方もいるので、商業もそうですが、生活という意味で観光というものがどういうインパクトがあったのかというところを考えていかなければならないと思います。今後もより観光が強まっていくなかで、生活と観光の関係、ご商売と観光の関係を整理して、このビジョンの中にも盛り込んでいかないといけないと思います。観光まちづくりという言葉がありますが、観光だけを考えるのではなくて、まちづくりとか生活のこともしっかりとこのビジョンの中で捉えていくことが大事だと思います。

一方で、観光そのものも盛り上げていきたいので、そのためにはどうしたら良いのかということで、新しくこのまちに来てご商売をやりたい、起業したい、観光商品、観光プログラムを開発したいとか、そういったものを受け止められる仕組みづくりも大事だと思っています。また、浅草は古い物がたくさんあります。古い物を大事にして観光コンテンツをつくっていく、当たり前のことですがそれが出来る仕組み、受け止められる地域の仕組みが大事で、魅力がどんどん生まれるようなまちにしていきたいと思います。言うのは簡単ですが、そういったものをちゃんとやっていかないと、観光地としても飽きられてしまうと思います。持続可能な観光地域をつくっていくための仕組みづくりを皆さんと考えていきたいと思っています。持続可能というのは、住んでいる方、ご商売、観光をやっている方にも持続可能な、という意味で是非目指したいなと思っています。

○会長 本日、国や都の方もいらしてますが、周辺で何が起きているのかについて、私も私なりの理解をお話したいと思います。浅草地域に関していうと、隅田川がとても大きな要素です。このまちが成り立ってきたところからの大事な要素です。この川は汚い時期もあったし、高潮の問題など悩ましいこともあったのですが、荒川放水路が出来て治水機能はそちらでカバーさせて、川辺で歩けるような空間も出来てきました。あるいは舟運の話もありますが、この流れはより一層続くだろうと思っています。それは両国にリバーセンターが出来ましたし、この近くのリバーウォークで大きな流れが変わったような気もしています。墨田区側の話ですが、隅田公園が明るくなって、人が集まる様になって、やはり川沿いの変化が起きております。その先に何かあるかという、築地があります。築地には舟運のポートをしっかりとつくるということを考えていますので、隅田川の文化が築地あたりで武家の文化と交わるような感じに



なっております。隅田川軸というのを皆さんの中で共有していくのが、東京全体としても大変価値が高いのではないかと考えています。

もう一つは、2040年代半ば、そういうと難しいのですが、私の理解では2045年は敗戦から100年、日本が戦争を終えてまさに焼け野原から100年たって何をどういう風につくったのか、そういう時代だと思います。2022年オリンピックの前は、1964年ですね。あれは高度経済成長期の出発点ということもあって、一気にそこから東京の近代化は進んでいきますが、それから50年以上、60年、70年を経ているなかで、何が起きるのかというと、多くのビルはその頃につくっていますので、それらの建て替えをしなければなりません。あるいは、地震の耐震補強をしなければなりません。実際にそういうことがビジネスシーンで起きてきているのが東京駅であり渋谷であり新宿であります。そういうエリアでは、実際に建て替えをしなければならない企業が先頭を切って再開発の話をまとめて、従来のまちと違うかたちで新しい魅力を持てるように工夫をしています。それがその通りにずっと続くかということ、DXも進んでいくし、オフィス需要も変わるのではないかという話もあるのですが、恐らく同じような中小ビルの建て替えは続けざるをえないと思います。そのときにどのように建て替えるのか、というイメージを皆さんが共有して持てないと、バラバラになってしまう。それは少しもったいないと思います。せっかく建て替えの時期が来ているので、皆で共通のイメージを持って、このまちをこう変えていこうというイメージが持てると、それなりのまちの香りが出てくるのではないかと考えています。高度成長期はとにかくつくらなければならなかったし、つくれば売れた訳ですが、その次の人口減少の時代で、我々自身がもう少し魅力を提供していく努力を皆でしていくことが必要になってきたのではないかと考えています。多くの再開発をみていると、1つのビルだけで頑張るということではもう他の地域に勝てないので、エリアで価値を上げていく事をやろうという方向で東京の中では動いておりますので、その中で浅草というブランドを持っているエリアをいかにして維持し、リニューアルしていくのかということ、皆で考えて少しずつ良い方向に変わっていかないといけないと思います。やむなく変わって、バラバラになってお終いではなく、どうせやるのであれば皆で良い方向に変えていこうよ、そういうことが出来ると良いと考えています。

今日は、このような感じで結論を出す訳ではないので、こんなことが問題ではないか、ということがあれば事務局の方に言っていただきたいと思います。部会の中でいろいろとご発言いただいて、また先程あった通り、ここにはいらっしやらないけれどもこういう人の意見は聞くべきだとか、外国人の方の意見はどうするのだろうかとか、女性の若い人がキーパーソンではないのかなど、いろいろとご意見があると思いますので、多くの方からご意見をいただいて、このビジョンをつくるにはもう少し時間がありますので、最初のスタートは幅を広げて考えていきたいと思っています。

○委員 資料2の9ページで、地震に対する地域危険度測定調査の結果があります。1から5までランク付けされており、ランク5とランク4が非常に危ないということです。浅草の建物倒壊危険度を見ると、相当なエリアがランク4、ランク5になって

います。ちなみに、東京都の町丁目の数は5,000以上あり、そのうちランク5がつくのは80個ぐらい、ランク4は300個弱ぐらいですので、相当選ばれている地区ということになります。つまり、古い建物が多いということで、これは未来を見ると、そのうち建て替わるということです。これらが一旦建て替わると40～50年はそのままになります。これから建て替えを迎える地区が、浅草にはこんなにたくさんありますので、未来志向で上手に建て替わらないといけないと思います。そういう意味で、これからの議論というのは未来の浅草にとって非常に重要な議論だということを読み取っていただければと思います。

それからもう1点ですが、浅草のまちはこういう課題があるからこういう風に改善していかなければいけない、というものが従来のまちづくり、従来の都市計画の発想ですが、これからはそうじゃないのではないかと思います。もっと自分たちで先取りして、計画的な意図をもって、浅草はこうなっていくべきだという、それを実現するために何が重要かという議論をしていけると良いかなと強く思います。

### (3) 今後の検討の進め方について

○会長 今日はまだもう1つ資料が残っていますので、そこまで説明していただいて、皆さんから幅広くご意見を頂こうと思います。

#### <事務局より資料3及び参考資料1について説明>

○会長 資料は全てご紹介いただきましたので、残った時間は限られていますが、もう一度皆さんにマイクをお渡ししたいと思います。全体に渡って、ご質問やご意見があれば、いかがでしょうか。

○委員 先程全体のスケジュールを拝見して、基本的には会議として部会と策定委員会を動かしていくようですが、現場で確認するとか、皆さんで視察をするようなプログラムは考えられますか。

○事務局 正直に申し上げますと、今のところはあまり考えていませんでした。ただ、例えば、まちづくり協議会ではワークショップ等をやっていただいておりますので、その進捗によっては、もしかしたら皆さんにまちの様子を見ていただいたりすることはあるかもしれませんが、今の段階では会議体だけを想定しています。見学、まち歩きなどは考えておりませんでした。今後考えていきたいと思っています。

○委員 地元の皆さんの方がよく知ってらっしゃるのでしょうが、我々がよく知らないところもあるかもしれません。歩いて確認したいなと思います。

○会長 今日は、せっかく国交省と東京都からもお越しいただいているので、行政テーブルから誰か発言はありませんか。まちづくりをいろいろサポートして頂くグループです。アドバイスがあれば、こういうものだとかサポートがしやすいとか。何か、どなたか、応援演説をしていただけると嬉しいです。

○オブザーバー 私自身が、浅草は観光を目的に来ているので、今日いただいたデータを見ながら、滞在時間が減っていたり、消費額が減っていて驚きました。今日お話を聞いて感じたのは、これからいろいろな更新が起きていくときに逆にチャンスなのではないかと思いました。路線価が低いというお話がありましたが、若い人たちが起業したいときは、一番は地価が安いときをねらって入ってくる、そういったことが世界で起きているので、こういったことをチャンスに建て替えの時期に若い方々が入って来れるようなまちづくりにトライできれば良いかなと思いました。

あと、滞在時間を増やすためには、歩きやすく、歩きたくなるまちなか、というのが重要なかなと思いました。ウォーカブルの方も取り上げていただけていますが、今後、いろいろな事例などをお示ししながら、一緒に考えさせていただければなと思っております。ありがとうございました。

○会長 是非、物心両面にわたるご支援をいただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

○委員 平成19年に現ビジョンが策定されたと思いますが、なぜ現ビジョンをそのタイミングでつくることになったのでしょうか。温故知新ではないのですが、そのきっかけが知りたいということと、現時点でその成果と言えるもの、もしくは反省点があったら今後のために教えていただければと思います。

○事務局 平成19年になぜ現ビジョンをつくったのか、ということでございますが、当時の資料から想像するところもあります。この当時、スカイツリーが向かい側の墨田区に出来ることが決まった時期、そして、TXが開業して、その機会を活かして、スカイツリー・浅草間の人の流動をつくって、浅草のまちを盛り上げていきたいという2点がビジョンをつくるきっかけとして、大きかったのではないかと思います。

それと、現ビジョンの反省点と成果というところでございます。成果としましては、目に見える大きいところだと、資料2に記載させていただいておまして、成果というか、完了したプロジェクト、未了のプロジェクト、継続プロジェクトの3つに分けさせていただいております。まず、成果として完了した、例えば、浅草文化観光センターの改築、あるいは道路のカラー舗装、オレンジ通りの整備、浅草雷門・商店街のアーケードの改修、浅草観音通り商店街環境整備事業、このような街並みの景観整備、特に道路に関わる整備がされたことが大きかったかと思います。その他、東京都さんのご努力の結果もありまして、浅草通りシンボルロード整備が完了したり、かっぱ橋本通りの整備が完了したりというところがございます。その他、大きいところと言うと、防災船着場が整備されたところもございます。ただ、未完のプロジェクトとして残っておりますのが、どうしても物理的な改修が難しかったところもありますが、駅の結節機能及び駅周辺を含めた整備です。これらについては、未だされないままとなっております。今回も交通結節という課題をあげさせていただいております。

大きな反省点と申しますと、どうしてもハードに偏ったものであったのかなと思います。どうしても、私共担当している部署がまちづくり系の部署でございまして、ハードの視点に重きを置いておりますが、まちづくりは本来もう少しソフトの視点が必要

ればいけなかったのかなと思っております。そのため、反省点としては、ソフトのまちづくりという視点に若干乏しいかなと感じているところでございます。

○オブザーバー 先程、今のビジョンを考察しながら、という意見がありました。東京都の広域のマスタープランでも、浅草は具体的に位置付けがあって、台東区のマスタープランの中でも位置付けがあって、東京都の全体の中での競争力を考えるときに、既に位置付けがあるものは、それを利用して進めていく方がよいのかなと思いました。建て替えの時期が迫ってきているところについては、まちづくりの更新は睨みながら進めないと、次の建て替えが起こるのは何十年後、更新されるのが60年後70年後ということになってしまいますので、そういうところにも目を向けながら進めた方がよいのではないかと思います。

○オブザーバー 先程、会長から隅田川のお話がありました。スカイツリーやミズマチなど、開発を色々なところで進めさせておられますが、墨田区と台東区との大きな違いは、隅田川にかかっている高速道路は墨田区側にあつて、台東区側については青天の隅田川があることです。そういったことも感じながら開発を進めているところでございます。隅田川をどう活かしたまちづくりが出来るのか、また浅草の景観、防災の部分と浅草ならではの景観というのは表裏一体のところがあると思っておりますが、それをどう活かしていくのか。私もこちらで勉強させていただきたいなと思っております。

○会長 ありがとうございます。浅草とスカイツリーは違いますが、違うものがあるから価値が上がる、という世界をもっとつくっていきたいと思います。是非、よろしく願いいたします。ありがとうございます。では、ここで会議を終了したいと思います。

○事務局 会長、どうもありがとうございます。ご出席のみなさま、本日は、お忙しい中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。長時間にわたり貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

次回の策定委員会と各専門部会は、先程もご説明させていただきましたが、年明け、令和5年に入ってから開催したいと考えております。ですので、開催日時と詳細については、決定次第、改めて通知をさせていただきます。

長い時間、ありがとうございます。以上をもちまして、第1回浅草地区まちづくりビジョン策定委員会を終了させていただきます。ありがとうございます。

## 5 閉 会

17時00分 閉会